

# 調査研究委員会レポート

## ◆調査研究委員会 委員の公募◆

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	金属産業生産システムにおける 制御系のオープンネットワーク 調査専門委員会 (D部門)【金属産業技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成18年4月～平成20年3月	プロコン, PLC, DCS で構成される制御系のネットワークのオープン化の要件を整理し, 既存のネットワークの機能, 性能, 適用状況を調査するとともに, 適用拡大に向けた課題, 方向性を提示する。	
委員長名(所属)	池田 昭則(安川電機)		
委員会開催頻度	6回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		佐藤 明雄 (安川電機)
	電話		0930-25-2108
	FAX	0930-23-3402	
E-mail アドレス	satoakio@yaskawa.co.jp		
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	産業分野における制御系ネットワークの研究, 開発, 設計, 又は国内外規格の経験, 知識を有する人		
応募締切	平成19年1月末日		

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	認知機能を持つエージェント技術 に関する調査専門委員会 (D部門)【一般産業技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成18年4月～平成20年3月	ロボットをはじめ, 様々な家電製品にとって, 人間に優しいコミュニケーションを支える認知能力の実現のために, 生物学的アプローチ, 情報工学的アプローチ, 心理学的アプローチ, ロボット工学的アプローチを統合・包括した認知エージェント技術に関する基礎理論・技術とその体系化を調査します。様々な分野や立場からのご参加をお待ち致します。	
委員長名(所属)	久保田 直行(首都大学東京)		
委員会開催頻度	4回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		森 善一 (茨城大学)
	電話		0294-38-7290
	FAX	0294-38-7290	
E-mail アドレス	mori-zen@mx.ibaraki.ac.jp		
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	ロボット工学, 生態心理学・記号論・言語学, 神経工学, 計算論的神経科学・視覚・画像理解における認知などに経験や関心の強い方		
応募締切	平成19年1月末日		

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	永久磁石同期機の特性算定技術 調査専門委員会 (D部門)【回転機技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成18年4月～平成21年3月	永久磁石同期機はベクトル制御インバータで駆動することを前提に使用されるケースが多く, 商用周波数電源での駆動は困難な場合が多い。このため, インバータの性能により永久磁石同期機の性能が変化する可能性があり, この課題を解決する算定法などを調査する。	
委員長名(所属)	中村 雅憲(東洋電機製造)		
委員会開催頻度	8回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		廣塚 功 (中部大学)
	電話		0568-51-1111
	FAX	0568-51-1219	
E-mail アドレス	hiro@solan.chubu.ac.jp		
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	永久磁石同期機的设计・開発ならびに研究またはその制御に従事している方		
応募締切	平成19年1月末日		

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	鉄道における運行計画・運行管理業務 高度化に関する調査専門委員会 (D部門)【交通・電気鉄道技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成18年4月～平成20年3月	鉄道会社における運行計画作成・運行管理業務に関わるシステム導入状況, および, システムによる業務支援状況や運行計画作成, 運行管理業務高度化に関する内外の研究開発動向に関する調査を実施する。	
委員長名(所属)	富井 規雄(鉄道総研)		
委員会開催頻度	6回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		富井 規雄 (鉄道総研)
	電話		042-573-7315
	FAX	042-573-7305	
	E-mail アドレス	tomii@rtri.or.jp	
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	鉄道システム, 情報工学, ダイヤ作成, 鉄道の 運行管理		
応募締切	平成19年1月末日		

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	多自由度モータのシステム化技術 調査専門委員会 (D部門)【リニアドライブ技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成18年4月～平成20年3月	本委員会の主な調査検討内容は以下の通りである ・多自由度モータの応用事例 ・多自由度モータの応用分野 ・多自由度モータのシステム化技術の動向 ・多自由度モータのシステム化における問題点の抽出	
委員長名(所属)	矢野 智昭(産業技術総合研究所)		
委員会開催頻度	6回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		矢野 智昭 (産業技術総合研究所)
	電話		029-861-7278
	FAX	029-861-7013	
	E-mail アドレス	t.yano@aist.go.jp	
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	電磁型に限らずアクチュエータの設計・解析, 応用, 評価のいずれかの経験を有し, 現在もその任に当たっており, 多自由度化に興味を持っている方		
応募締切	平成19年1月末日		

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	リスク未然防止手法の普及に係わる 協同研究委員会 (D部門)【生産設備管理技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成18年4月～平成20年3月	本委員会は, 次の項目について調査および検討致します。 (1)リスク未然防止の視点から, これまでの各種手法やシステムの集約と統合化 (2)現場における<統合化手法や実用システムの望ましい場面や運用形態>の調査	
委員長名(所属)	吉野 賢治((有)ヒューマン・ラボ)		
委員会開催頻度	6回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		吉野 賢治 ((有)ヒューマン・ラボ)
	電話		046-241-3310 090-6100-3768(直通)
	FAX	046-241-3310	
	E-mail アドレス	human.lab@guitar.ocn.ne.jp	
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	★人間工学, 心理学, 労働安全 ★リスクアセス・マネジメントの未然防止等について興味のある人		
応募締切	平成19年1月末日		
協同研究委員会の場合の委員の負担		1万2千円/年	

## ◆協同研究委員会 委員の公募◆

委員会名 (所属部門) 【技術委員会】	IT 化監視制御技術協同研究委員会 (D 部門) 【生産設備管理技術委員会】	委員会での調査・検討項目の概要, 委員長のメッセージ等	
設置期間	平成 18 年 6 月～平成 20 年 5 月	最新の IT 技術をベースに TCP/IP 等の IP 通信ネットワークを核として, PC による中央装置, サブコントローラ, フィールド装置からなるオープン環境, マルチベンダー環境のビル, 工場, プラントの需要家設備, ユーティティ設備, セキュリティ設備の近年の内外の IT 化監視制御設備について調査研究し, 中央監視制御システムの有りかた, 標準的な枠組等をまとめ, 今後の中央監視制御システムの計画, 設計, 構築, 保守・保全に利する。	
委員長名 (所属)	豊田 武二		
委員会開催頻度	6 回/年		
問合せ ・ 公募 受付 先	氏名 (所属)		豊田 武二 (協立機電工業㈱, 技術顧問)
	電話		(03)3268-7163
	FAX		(03)3268-7272
	E-mail アドレス	toyoda@kyoritsu-kiden.co.jp	
応募いただきたい方の 専門分野, 経験など	監視制御システム, ビル管理システム, 電力系統, 自動制御, 通信ネットワークワーク, 通信プロトコル		
応募締切	平成 19 年 1 月末日		
協同研究委員会の場合の委員の負担		0 円/年	

### 編集後記

この後記を書いている横では、肌寒さのなか新年度がスタートしたところです。花見には向かない日が続いたものの、ワールドベースボールクラシックで日本が優勝したり、景気が上向いてきたりと明るい話題で始まった感があります。工学に携わるものの一員としては、この勢いが 6 月の Robocup 世界大会に波及し日本勢が活躍してくれると期待するのですが、さて 7 月号が出る頃には結果が出ております。予想(願望)は当たったでしょうか？

今回のニュースレターではまず最初に、山下様による平成 18 年度の部門事業計画をお届けします。活動基盤の拡大や国際化の推進など、積極的な内容となっております。

資料コーナーでは、経済産業省の資料「2006 我が国の工業」を森川様より紹介頂いています。GDP の産業別比率からは製造業が年々割合を減らしてきているものの、製品出荷額は 2 年連続の上昇で、日本の経済を製造業が力強く支えていることがわかります。

学界情報は、米国ダラスで開催された APEC2006 について森本先生より紹介頂いています。各国でのパワーエレクトロニクスのトピックスの違いや中国の元気の良さなどの学術的な情報に加えて、国際会議の雰囲気や楽しさが伝わってくる内容となっております。

最後に、ご多忙の中、原稿を執筆して頂いた皆様、ならびに担当委員の皆様に、厚く御礼申し上げます。

エディタ 南方 英明 (千葉工業大学)